

ポーラのサステナビリティ活動事例を紹介 地球環境保護活動や移動式エステサロンカー・外国籍ママ支援など

株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、社長：及川美紀）は、2029年に迎える創業100周年に向けて、私と社会の可能性を信じられるつながりであふれる社会を目指すサステナビリティ方針を掲げ、社会・経済・環境におけるSDGsの目標数値を設定し、全国で活動を推進しています。

今回は、これまでに実施してきた各地の活動を代表して、いくつかの事例をご紹介します。

地球環境保護を目指す 岡山ももたろうプロジェクト（岡山県）



岡山県内のポーラショップと従業員が、「岡山を元気にしよう！」という想いのもと、2020年に「岡山ももたろうプロジェクト」を立ち上げました。発足して2年、地域やお客さまとともに、現在までに3つのプロジェクトに取り組んでいます。

◆エコバッグプロジェクト

SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」を果たし、地球環境保護を目指すため、2020年7月より、紙製・ビニール製のショッパーのお渡し回数を減らし、お客さまご自身のエコバッグをご持参いただくことを開始。現在では岡山県の9割のショップがエコバッグ推進に取り組んでいます。



◆リユースプロジェクト

ポーラ製品の空容器・空箱を岡山の各ショップで回収し、空容器などは資材を必要とする保育園や施設にリユースとして寄付。さらに、廃材を使ったアート作品のコンテストとして岡山の保育園や幼稚園、高校、大学、専門学校などの協力を得て「リユースコンテスト」を開催し、未就学児から中学生までで募集したところ、124件もの応募がありました。コンテストの審査員には岡山大学のSDGsアンバサダーの学生の皆さまにも参加いただき、地域とのつながりを深めています。



◆海と日本プロジェクト 「人も地球も美しくするポーラ」

岡山県のある中国地方は、海に囲まれ、日本海や瀬戸内海に流れる河川が沢山あり、島国も多く存在する地域です。世界中で増え続ける海洋ごみは陸から川を伝って海に流れ出たものが8割で、2050年の海は魚より海洋ごみの方が多くなるといわれています。

そこでポーラ岡山県のショップと従業員は、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」と協力し、「人も地球も美しくするポーラ」を発足。1、海に関心をもってもらうこと 2、一人ひとりがごみを減らす意識を醸成すること（※3R：減らす・再利用・再生利用）を目的に活動しています。

具体的には、集まった125名で浜川海岸の清掃活動を行い、海ごみ研究員の方に当日集めたごみの分析をしていただきました。その他、「海と日本プロジェクト」とポーラのコラボ製品としてオリジナル化粧ポーチを作り寄付付きで販売。岡山県環境保全推進基金部を通じて寄付しております。ポーチ作りには岡山県立大学デザイン科の学生の方にも参画いただきました。

本年は、リユースコンテスト、「海と日本プロジェクト」を岡山・広島・山口・島根・鳥取の中国地方5県で一緒に行う予定です。



【報道関係からのお問い合わせ先】

株式会社 ポーラ ブランドクリエイティブ部 〒141-8523 品川区西五反田2-2-3
TEL：03-3494-7119 FAX：03-3494-6198

【メディアに掲載いただくお問い合わせ先】

ポーラお客さま相談室（フリーダイヤル）TEL 0120-117111

ポーラ サロンカープロジェクト（岐阜県）

2020年10月に、岐阜県で初めての移動式ポーラエステサロンカーが始動しました。企業の福利厚生としてご利用いただいたり、地域や自治体イベントへの出張の他、これまでお会いすることのなかった新しいお客さまとの出会いもあり、個人宅へのお出張依頼やリピーターの方のご依頼も増えています。

◆サロンカープロジェクトの経緯

ご高齢の方の免許証返納による店舗までの交通手段の変化、介護世代の増加、核家族化による子育ての孤立化や一人親の増加など、様々なライフスタイルの変化により自分の時間をつくるのが難しくなっているお客さまに寄り添い、お客さまの移動時間を取らせることなく、店舗サロンのクオリティを保ったサービスを提供したいと考えました。

◆サロンカーご利用者の声

岐阜県内の企業や病院にお勤めの方の福利厚生として、サロンカーをご利用いただいています。ご利用者からは、「わざわざサロンに行かなくても勤務中にサービスを受けられるので日頃忙しいスタッフも気軽にサービスが受けられ大変満足してもらえ、その後の仕事のモチベーションがアップした」など嬉しい声をいただいています。その他、地域のマルシェやイベントなどにも出店しています。

車内は心地よい音楽と香りで満たされ、冷暖房完備のため季節問わず快適にエステなどのサービスを受けていただけます。

今後もサロンカーを中心に他業種や地域との協業をしながら街の小さなコミュニティを生み出し、より多くのお客さまに自分を慈しむリラックスした時間を届けられるように活動していきます。



島民ツナグ計画（長崎県五島市）

長崎県五島市は、ほぼ全域が西海国立公園に指定され、自然海浜・火山景観など、複雑で変化に富んだ景観が楽しめる、2018年には世界遺産登録もされた列島です。近年減り続ける人口やコロナ禍で観光産業、漁業・海産物業が打撃を受け閉塞感が続く島の人たちを元気にしたいと、様々な取り組みを行っています。

◆美容イベント「Beauty Fes」

ポーラだけでなく、五島の美容サロンが集結して、様々なサロンをお得で気軽に体験いただけるイベントを企画。新しいお客さまとの出会いもありました。

◆五島ホットスポットラリー 21事業主連携

美容サロンだけでなく、コロナ禍で影響の合った飲食店や生花店などにも声をかけ、全21事業主が連携してスポットラリーを開催。お客さまが参加店舗に来店すると紹介カードを受け取ることができ、そのカードを持ってまた別の参加店舗に行く特典やサービスを受けられる仕組みで、地域の交流や出会いにつながっています。

◆子供・子育て・Uターン、Iターン支援

人口減少とともに島に住む子供も減少しているため、五島を旅立った子供たちがいつか島に戻ってきたいと思えるように、転入された人には子育てが面白くなる居場所をつくれるようにと思い、親子で体験できるハンドトリートメントレッスンやワークショップを企画。また、五島市が主催の就職説明会を行い、Uターン、Iターンを支援しています。

令和元年～令和3年まで毎年、五島市への人口転入が転出を上回り、3年連続で増加しました。人口増加は65年ぶりのことです。

今後も、他業種や自治体、学校などと協業しながら、地域のつながりを広げていきます。



飛騨高山に、仕事と人を（岐阜県）

岐阜県北部にあり、山に囲まれた観光地・飛騨高山は、2017年時点では10万人だった人口が現在8万7千人ほどに減り、過疎化が進んでいます。飛騨高山では高校を卒業した子ども達のほとんどが地元を離れ、地元でどんな仕事があるのかあまり知らず、さらに親子どもに対して、飛騨高山地域に住むことを勧める人が少ないこともわかりました。そこで、飛騨高山にある多くの企業・仕事を地元の親子に知っていただくためのプロジェクトを開催しました。

◆お仕事発見隊・お仕事発表隊

まずは将来、高山で働くことについて親子で考えてもらうために、想いに賛同していただいた高山市内の24か所の事業者の協力を得て、205名の小中学生に様々な仕事を体験していただきました。

さらに、職業体験について子供たち自身で動画を制作し、発表する場をつくり、子供たちに「地域のおしごとPR大使」になっていただく機会を設けました。

これらの体験を通して、子供たちはもちろん、親同士も未来について語り合う機会になり、参加者の子供たちの満足度は99%、親の満足度は93.6%と高評価。事業者側からも「子供たちと接することで従業員の成長に繋がった」「自分たちの仕事の魅力を再認識できた」などの声が上がリ、多くの方から継続的に実施・参加したいという意向をいただいています。

今後もこの活動のように、学校教育とはまた異なる地域での学び・体験の機会をつくり、子供、親、地元企業の絆を深めたり、地域に仕事と人が存続するためのきっかけを創っていきます。



外国人ママの支援（茨城県つくば市）

133ヵ国、約1万人もの外国籍住民が暮らす茨城県つくば市にあるポーラ「crewpeace」ショップは、転出入の多いエリアに位置しています。外国籍住民のうち半数以上が20～30代で、英語以外を母語とし、言葉の壁などから孤立したママが多いです。このような方が安心できる場所づくりとして、簡単でわかりやすい「やさしい日本語」を共通言語とした多国籍子育て支援「にほんごでおしゃべり！」プロジェクトが2020年に発足しました。

「crewpeace」ショップは、つくば市で地域とのつながりを深めたい、孤立しがちなワンオペママたちを支援したいという想いから、つくば市地域振興課や市の子育て支援センター、子育て中のママが中心となって活動する「NPO法人kosodateはぐはぐ」へのアプローチをきっかけに、「にほんごでおしゃべり！」プロジェクトチーム主催する活動に参加し、現在は基幹メンバーとして活動しています。

インド・中国・ベトナム・モンゴルなど、参加された様々な国の方たちと交流することで、つくば市が外国籍の子育てママを多く抱え、言葉の壁や、知人や相談先がない・子どもの友達も増えない、防災への不安があり、支援を必要としていることがわかりました。

◆「ママのきれいクラス」運営へ

その後crewpeaceショップは、「にほんごでおしゃべり！」サロンの基幹メンバーとして、プロジェクトチームの日本語教師、子育て支援者、筑波大学の大学院生、留学生などとともに「ママのきれいクラス」の企画・運営など本格的に活動を開始。このクラスでは参加者のニーズに合わせたメイクやスキンケア方法をレクチャーする他、多文化交流の場にもなっています。

「にほんごでおしゃべり！」では、プロジェクトチームの防災士による防災講座をつくば市後援で開催し、つくば市長も参加するなど美容にとどまらず文化・環境に関するコンテンツなども配信しています。

こうした活動の結果、参加者同士の交流や母親自身の楽しみにつながり、積極的に日本語を練習する場にもなっています。参加者からは就労が決まったと嬉しい報告をいただくこともあり、引き続き多国籍ママたちの拠り所となるよう、このプロジェクト内での交流が参加者の自信や社会復帰へのステップへとつながる活動を続けていきます。



活動報告



ママのきれいクラス
～ファンデーションを使わないメイク～
フリートーク（保育園のはなし など）

活動報告



～やさしい日本語で考えましょう～
地震と防災



多国籍子育てサロン
「にほんごでおしゃべり！」

日々の活動や予定については
下記をご覧ください。

<https://instagram.com/oshaberinihongo>

【参考資料：ポーラ 2029年 サステナビリティ方針と目標】

社会 ジェンダー、年齢、地域格差、様々な「壁」の解消



- ①地域起業オーナー数：月商500万円以上のショップオーナー※を1,200人まで増やし、組織力が高い組織を拡大する。
- ②地方自治体（NPO・NGO含む）との協業件数：28件。協業から生まれる新しい価値を地域に還元。
- ③地域の中でロールモデルとして認知されるショップオーナーの数：110人。



- ①女性管理職比率：総合職従業員の男女比率と同等にする。
- ②美容職のダイバーシティの推進：ジェンダーのみならず、障がい者・グローバル対応を推進する。
- ③育休取得率：男性・女性ともに、100%取得。



事業としての協業の拡大：全国協業実施へ。

経済 多様な人が、健康に、イキイキと活躍する機会の創出



- ①健康事由での退職者を限りなくゼロへ：がん罹患による退職者 0人
- ②アピランスケアを理解し、各ショップ・コーナーの責任者または主力ビューティーディレクター※・ビューティーコーディネーター※が適切にアドバイスできる状態にする。
- ③ビジネスパートナーの健康診断受診率：80%へ。段階的に受診率や再診率を上げる。



- ①60歳以上のビューティーディレクターの数を増やす。（2019年12月現在：合計 11,894名）
- ②疾病・子育て・介護等で時間に制約がある人も働きやすい体制を整える。自由で自分らしい働き方を提供することで、一人ひとりが高いパフォーマンスを発揮し、生産性・創造性の向上を目指す。



外部パートナーとの連携や、働き方改革から、新しい価値を創出。

環境 未来に、次世代に環境をつなぐアクション



- ①スコープ1・2でCO2排出量を26%にする。
- ②お客さまへの新たな価値提供の実現を前提としながら、同時に、環境に配慮したサービスを提供する。



RSPO認証パーム油使用率：100%

※ショップオーナー：全国の地域でポーラショップを経営するオーナー

※ビューティーディレクター：全国に展開するポーラのショップの中で、カウンセリングやエステなどをはじめとした美容を通じてお客さまのありたい姿を引き出し価値を提案する、プロフェッショナルな販売員。

※ビューティーコーディネーター：百貨店ポーラコーナーで、カウンセリングをはじめとした美容を通じてお客さまのありたい姿を引き出し価値を提案する、プロフェッショナルな販売員。



ポーラは、新体操ナショナル選抜団体チーム・新体操個人日本代表「フェアリー ジャパン POLA」のオフィシャルパートナーです。